

千葉県社会福祉事業団自主事業の移譲の進捗について

代宿地域支援センター等の事業譲渡に係る譲渡先法人の選定結果

事業団の基本財産等を使用して事業団が運営する「代宿地域支援センター」等を他の法人に譲渡することとして、事業団が譲渡先を募集したところ、2団体から応募があった。

公開プレゼンテーションを行い、選定委員会を開催して2団体の提案内容を審査し、事業団において社会福祉法人大久保学園を譲渡先として選定した。

1 譲渡先

社会福祉法人大久保学園（船橋市金堀町499-1）

2 経緯

- （1）平成27年7月21日に募集要項を公表し、9月4日を応募期限としたところ、2団体から応募があった。
- （2）9月15日に、公開プレゼンテーションを行い、応募のあった2団体によるプレゼンテーション及び質疑を行った。
- （3）9月15日に選定委員会を開催して審査基準に基づく採点を行った結果、社会福祉法人大久保学園を譲渡先としてふさわしいとして選定した。
- （4）9月28日に評議員会、9月29日に理事会を開催し、選定委員会での審査結果を踏まえて協議した結果、社会福祉法人大久保学園を譲渡先として決定した。

3 譲渡先法人（社会福祉法人大久保学園）の提案の概要

希望理由	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の安全と安心の継続、職員のやりがいのある事業展開への転換と生活の保障を視野に入れた事業運営を行うことにより、袖ヶ浦福祉センターの改革と信頼の回復、千葉県の福祉の底上げに微力ながらも役立つことができるのであればという思いから応募に至った。 ・当法人の取組みと実績を譲渡事業所の運営に有効的に活かすことができる。
事業提案	<ul style="list-style-type: none"> ・「アトリエけやき」を生活介護事業30名、就労継続支援B型事業10名の多機能型事業所（定員40名）に事業変更する。 ・ジョブくらはみはアトリエけやきの従たる事業所とし、現在の活動内容（就労継続B型）を行う。 ・ケアホームアシスのグループホーム3か所、定員20名はそのまま継続。 ・ながうら地域支援センターのグループホーム3か所、定員12名はそのまま継続。リープハイツに宿直職員1名を配置。 ・ながうら地域支援センターの相談支援事業は、代宿地域支援センターの相談支援事業に統合する。

利用者の権利擁護・安全確保	<ul style="list-style-type: none"> ・権利擁護への対応(予防)として、各事業所の権利擁護委員会を中心に実例を用いて説明し他事業所の事例を他人事としないよう全職員に周知している。職員が孤立しないようチームアプローチを原則としている。 ・福祉サービス第三者評価は、将来必要に応じて検討。指定管理を受けている事業所で毎月モニタリングが行われているのでその結果を客観的に分析、参考にしながら譲渡後の事業運営に活かしていきたい。 ・事故防止、ヒヤリハット対策はサービス向上委員会が担当。事故報告等で周知したほうがいいものは、毎月の会議で情報共有する。 ・譲渡されるグループホームの一部に耐震面で不安があるものを感じたので、事業引き受け後に対応を検討する。
職員体制・職員確保	<ul style="list-style-type: none"> ・職員体制では、現在の職員数を確保したいと考えている。 ・継続雇用する職員については、現在の給与所得を保証し、採用後の昇給は当法人の給与規程に準拠する。
資金調達方法	<ul style="list-style-type: none"> ・法人本部拠点区分に「施設整備積立預金」として資金を積立しており、それを取り崩し充当する。

4 選定委員会での評価点数

(1) 必須項目の審査

- ・「2点」を標準とし、優れているものには加点、標準に満たないものには1点。
- ・選定委員の過半数が1点を付けた審査内容があり、理事会がこれを適切な評価と認めた場合は失格。

選定基準	審査項目	審査内容	配点	社会福祉法人 大久保学園	団体A
事業主体の適格性	法人等の施設の運営実績	1 実績から、本施設を良好に管理運営できる可能性はあるか。	3	2.6	2.4
		2 過去の監査等の指摘に対する対応は適切に行われているか。	3	2.4	2.3
	安定的な運営が可能となる財政的基盤	3 法人の財務状況は健全か。	3	2.7	2.0
事業計画の内容が平等な利用を確保することができるものであるか	事業の設置目的を踏まえた運営方針	4 事業運営の基本的考え方は適切に説明されているか。	3	2.6	2.6
		5 経営理念やコンプライアンスの取組等、経営モラルは適切に守られているか。	3	2.3	2.4
	平等な利用を図るための具体的な手法及び期待される効果	6 事業内容が一部の利用者に対して不当に利用を制限又は優遇するものではないか。	3	2.3	2.6
個人情報取扱の取扱は適正か	個人情報保護の取組	7 個人情報保護のための適切な措置がとられているか	3	2.4	2.4
必須項目小計			21	17.3	16.7

(2) 一般項目の審査

- ・配点が「3点」の場合は「2点」を標準とし、優れているものには加点、標準に満たないものには1点。
- ・配点が「5点」の場合は「3点」を標準とし、優れているものには加点、標準に満たないものには減点。
- ・配点が「10点」の場合は「5点」を標準とし、優れているものには加点、標準に満たないものには減点。

選定基準	審査項目	審査内容	配点	社会福祉法人 大久保学園	団体A
事業計画書の内容が、当該事業の効果を最大限	事業運営の見通しと関係機関等との連携の考え方	8 事業の譲渡を希望する理由は適切か。	3	2.1	2.4
		9 事業の長期的な展望に対する考え方が適切に説明されているか。	3	2.1	2.0

に効果的に効率的に発揮させるものであるか		10 保護者との連携に関する基本的な考え方は適切か。	3	2.4	2.4
		11 地域住民や市町村、医療機関等の関係機関との連携に関する基本的な考え方は適切か。	3	2.4	2.6
		12 アドバンスながうらや袖ヶ浦福祉センター、その他の近隣福祉施設等との連携に関する基本的な考え方は適切か。	3	2.3	2.4
	利用者の権利擁護と個人情報保護、安全に関する事項	13 利用者の権利擁護に関する基本的な考え方は適切か。具体的計画（研修、虐待防止委員会、後見人等）は立てられているか。	5	3.6	3.4
		14 苦情解決の体制、苦情解決第三者委員との連携に係る具体的な計画は立てられているか。	5	3.4	3.1
		15 福祉サービス第三者評価機関による評価の実施を計画しているか。	3	2.3	1.9
		16 日常における職員間の情報共有、上司への連絡・報告体制に係る計画が適切に立てられているか。	5	3.6	3.6
		17 事故防止、ヒヤリハット等の体制に係る計画は適切に立てられているか。	5	3.7	3.4
		18 施設の安全管理に関する基本的な考え方は適切に示されているか。	5	3.9	3.4
		19 感染症対策、防災等危機管理の体制に係る計画は適切に立てられているか。	5	3.9	3.4
企画提案書に沿った管理を安定して行うために必要な能力（人員、財政的基盤等）を有しているか	利用者サービスの向上を図るための具体的手段及び期待される効果	20 個別支援計画の立案・実施の体制に係る計画は適切に立てられているか。	5	3.6	3.6
		21 共同生活援助事業について、支援内容が利用者の特性に合わせた適切な計画となっているか。	5	3.4	3.6
		22 生活介護事業について、日中活動の提供や日常生活上の支援が、利用者の生活の質を高めるための計画となっているか。	5	3.7	3.7
		23 相談支援事業について、今後の事業運営の将来展望は適切に計画されているか。	5	3.6	3.7
		24 就労継続支援B型事業について、生産活動内容、工賃の考え方等は、適切に計画されているか。	5	3.1	3.7
	収支計画の内容、適格性及び実現の可能性 安定的な運営が可能となる人材状況	25 収入、支出の積算と事業計画の整合性は図られているか。	3	2.6	2.3
		26 収支計画の実現性はあるか。	3	2.4	2.3
		27 職員体制及び職員配置の考え方は適切か。	5	3.7	3.4
		28 職員採用及び職員確保の考え方は適切か。	5	3.6	3.1
		29 職員の指導育成、研修体制は十分か。具体的計画は立てられているか。	5	3.7	3.6
		30 利用者処遇の観点から、現在	5	3.9	3.3

		の職員の継続雇用の計画は適切に立てられているか。			
	土地・建物の取得資金調達の妥当性	31 資金調達方法は適切か。	5	4.6	2.7
その他	提案全般からの事業譲渡の妥当性	32 提案全般を通じ、総合的観点から判断した総合評価による事業譲渡の妥当性はどうか	10	7.1	6.0
一般項目小計			114	84.7	79.1
合 計（必須項目＋一般項目）			135	102.0	95.9

※選定委員の評価した総合得点の過半数が標準点合計83点（標準点2点×15項目，標準点3点×16項目，標準点5点×1項目）に満たず、理事会がこれを適切な評価と認めた場合は失格とする。

5 選定委員会における選定理由

（社福）大久保学園は、障害者施設・事業所の運営に豊富な実績を有している。また、法人の財務状況が健全であり、同センターの土地・建物の取得のための資金調達にも不安がなく、安心して事業を引き継ぐことができる。

利用者の権利擁護と安全確保に関する取組みに対する考え方が評価できる。

職員体制及び職員確保の考え方が適切で安定的な運営が可能であると思われる。現在の職員の継続雇用の提案も妥当である。

6 選定委員会における選定にあたっての見解

①（社福）大久保学園は、アトリエけやきを生活介護事業と就労継続支援B型事業の多機能型事業所（定員40名）とし、ジョブくらのなみをアトリエけやきの従たる事業所とすることを企画提案しているが、現在の建物のスペースではアトリエけやきを定員40名の多機能型事業所とすることは難しいと思われる。譲渡先法人は早急に県と協議を行い、利用者の継続支援に影響を与えないような事業内容を検討されたい。

②現在の職員の継続雇用の希望が少なかった場合は、事業団においても利用者の継続支援に影響を生じないように譲渡先法人に協力されたい。

7 今後の予定

事業団から引継ぎを行った上で、平成28年4月1日から（社福）大久保学園による事業運営を開始する予定。

自主事業の事業譲渡に係るスケジュールについて

事業譲渡の カテゴリー	県が県有財産を譲渡する法人を公募	事業団が事業を譲渡する法人を募集
対象事業	<p>県有財産（土地・建物）を使用している事業</p> <p>①アドバンスながうら</p> <p>②児童デイサービス「虹の子」</p>	<p>事業団基本財産等を使用している事業</p> <p>①代宿地域支援センター</p> <p>②ながうら地域支援センター（グループホーム3か所）</p> <p>③ジョブくらなみ</p>
譲渡先募集 に向けた 状況等	<p>○譲渡について意見を聴取する外部有識者（7名）の選定・意見聴取会の開催</p> <p>○譲渡に係る選定委員会（7名）の設置・開催</p> <p>○3月25日から公募、4月8日に現地説明会開催（4法人参加）、6月1日に応募締切（提出1法人）</p> <p>○6月29日に公開プレゼンテーション、7月8日に選定委員会、7月10日に選定結果（社会福祉法人佑啓会）公表</p> <p>○7月19日に保護者説明会</p>	<p>○企画提案書の審査を行う選定委員会委員（7名）の選定</p> <p>○7月21日から募集、8月5日に現地説明会開催（2法人参加）、9月4日に応募締切（提出2法人）</p> <p>○9月15日に公開プレゼンテーション・選定委員会、9月28日に評議員会、9月29日に理事会、10月1日に選定結果（社会福祉法人大久保学園）公表</p> <p>○10月10日に保護者説明会</p> <p>※譲渡対象外グループホームの扱い</p> <p>事業譲渡の対象としないグループホーム10か所については、事業団で引き続き運営を行い、平成29年度末までの集中見直し期間中に利用者を他のグループホームに転居していただくこととする。</p>
スケジュール	<p>27年3月25日 公募開始</p> <p>6月1日 応募申込書締切</p> <p>6月29日 応募者によるプレゼンテーション 外部有識者意見聴取</p> <p>7月8日 選定委員会</p> <p>7月10日 選定結果（社会福祉法人佑啓会）公表</p> <p>7月～ 千葉県社会福祉事業団との引継ぎ</p> <p>28年4月1日 県有財産（建物）譲渡 社会福祉法人佑啓会による事業運営開始</p>	<p>27年 7月21日 応募開始</p> <p>9月4日 応募申込書締切</p> <p>9月15日 応募者2団体によるプレゼンテーション・ 選定委員会</p> <p>9月29日 理事会で譲渡先法人の決定</p> <p>10月1日 選定結果（社会福祉法人大久保学園）公表</p> <p>10月～ 千葉県社会福祉事業団との引継ぎ</p> <p>28年 4月1日 事業譲渡 社会福祉法人大久保学園による事業運営開始</p>